

2017年度 定例総会議事録

表記の総会が2017年5月20日(土)17時30分より東京都立川し統計数理研究所大会議室にて永田会長を議長として開催された。出席18名、委任状より表決権委任した者83名(議長委任63名、会長委任2名、氏名のみ18名)で、出席者合計が、3月31日の正会員数478名の10分の1以上となり、会則第14条(平成29年5月20日総会で改訂した前の版)により総会は成立した。

I. 応用統計学会2016年度 事業報告 (2016.04.01~2017.03.31)

1. 概況

2016年度は、永田靖 会長・栗木哲 副会長をはじめとする15名の理事、および、富澤貞男、瀬尾隆の両監事の新体制で活動した。

財務状況はほぼ例年とおりでであった。

2016年度中の会員の入会、退会状況は、入会者数10名(内訳:正会員9名、学生会員1名、機関購読(団体)0件)、退会者数40名(内訳:正会員39名、学生会員1名)及び機関購読(団体)1件であった。

この結果、会員数は2016年度末現在で499名である。内訳は正会員478名、学生会員21名である。また、賛助会員6社、機関・団体購読は33件である。

正会員と学生会員を足した会員数の推移は次のとおりであり、会員増への方策の検討が必要である。

	2010年度末	2011年度末	2012年度末	2013年度末	2014年度末	2015年度末	2016年度末
会員数	550名	547名	532名	526名	501名	521名	499名

2. 総会の開催

2016年5月28日に総会を統計数理研究所 大会議室(立川市)で開催した。

3. 評議員会

2016年5月28日に定例評議員会を統計数理研究所 会議室1で開催し、総会に付議する事項等について審議した。

4. 理事会

対面理事会を6回(2015年5月(2回),9月,11月,2016年2月,3月)、メール審議による理事会を7回、計13回理事会を開催し、学会の運営に関する事項、会員の入退会に関する事項、学会などの後援や協賛に関する事項について審議した。

5. 機関誌編集

「応用統計学」Vol.45のNo.1-2(2号の合本),No.3を発行した。掲載原稿は5編(巻頭言1,フォーラム2,研究論文2)である。総ページ数の推移は次のとおりである。

巻	38	39	40	41	42	43	44	45	平均
総ページ数	172	100	209	152	195	57	187	122	149.2
論文数*	8	5	11	7	10	3	11	5	7.5

*掲載された記事の数(総合報告,研究論文,覚え書き,統計計算,フォーラム)

6. 応用統計学会論文賞の選考

「応用統計学」に掲載された論文から選考し、以下のように学会論文賞を授与した（*が受賞対象者）。表彰式を9月の連合大会に開催される企画セッション内で行い、受賞記念講演を3月の年会で実施した。

優秀論文賞：*嶋村 海人・*川野 秀一・*小西 貞則，モデル平均化法による Bayesian lasso 回帰モデリング。Vol. 44, No. 3 (2015), 101-117.

奨励論文賞：*渋江 遼平・竹村 彰通，期間の限られた点過程の拡張べきモデルとネットオークションの入札到着データへの適用。Vol. 44, No. 3 (2015), 89-100.

7. 年会

2017 年年会を 2017 年 3 月 18 日に中央大学後楽園キャンパス（文京区春日）で開催した。

3 月 17 日に日本計量生物学会主催によるチュートリアルセミナー 1 件（田栗正隆氏（横浜市立大学）オーガナイザーによる「観察研究における因果推論」のテーマで 3 つの講演，1：田栗正隆氏「潜在反応モデルに基づく交絡調整」，2：黒木学氏（統計数理研究所）「因果ダイアグラムと構造的因果モデル」，3：篠崎智大氏（東京大学）「時間依存性交絡の調整」を開催した。参加者は 223 名（計量生物・応用統計学会会員 152 名，学生 16 名，非会員 55 名）であった。

年会では，一般講演 4 件，特別講演 2 件，学会賞講演 2 件，ポスター発表 8 件であった。優秀ポスター発表として以下の 3 名を選出した（*が受賞対象者）。

*川島孝行（総合研究大学院大学），藤澤洋徳（統計数理研究所）

多量のミスラベルデータに対するスパースなロジスティック回帰

*金子 渥（電気通信大学大学院），川野秀一（電気通信大学大学院），井元清哉（東京大学）
配列依存の読み取り誤差を考慮に入れた次世代シーケンスデータに基づくがんゲノム変異の検出

*高橋佳苗（大阪市立大学大学院），山本紘司（大阪市立大学大学院）

小規模臨床試験における陽性的中率・陰性的中率の比較手法の検討

2017 年年会の参加者は 55 名（正会員（後援学会員を含む）40 名，学生（学生会員を含む）10 名，非会員 5 名）であった。参加者数の推移は次のとおりである。

	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年	2017 年
参加者数	126 名	125 名	122 名	105 名	106 名	64 名	71 名	55 名

※ 次回の年会は 2018 年 3 月に 2018 年年会として開催予定。

8. フロンティアセミナーの開催

応用統計学フロンティアセミナー「データ駆動型科学の最前線 ～自然科学・社会への新たなアプローチ～」を，2016 年 5 月 28 日(土)に統計数理研究所（大会議室）で行った。参加者数は 76 名（会員 33 名，非会員 43 名）であった。講演は以下のとおりである。

岡田 真人（東京大学大学院・新領域創成科学研究科）

「AI for science とデータ駆動科学：ベイズ計測と VMA による計測科学の新展開」

津田 宏治（東京大学大学院・新領域創成科学研究科）

「物質・材料開発のための機械学習：仮想スクリーニングとベイズ最適化」

上田 修功（NTT・コミュニケーション科学基礎研究所）

「自然科学，社会科学分野でのビッグデータ分析」

当日の講演資料は一部を学会ウェブページにて掲載し、応用統計学にもフォーラムとして掲載した。

9. 統計関連学会連合大会

統計関連学会連合大会を2016年9月4日～7日に金沢大学 角間キャンパス で開催した(共催：応用統計学会・日本計算機統計学会・日本計量生物学会・日本行動計量学会・日本統計学会・日本分類学会)。会場で応用統計学会の広報のブースを設営した。

参加者数は延べ1,284名(チュートリアル参加者数252名, 市民講演会参加者数197名, 本大会参加者数835名), 講演件数は399件(キャンセルを除く)であった。本学会の企画セッションとして、応用統計学会賞表彰式と、応用統計学シンポジウム「統計モデルとマーケティング」(オーガナイザー：佐藤 忠彦(筑波大学))を行った。

大会参加者総数とチュートリアルセミナー参加者の推移は次のとおりである。

年 度	2011	2012	2013	2014	2015	2016
大 会	821名	824名	979名	1034名	776名	835名
チュートリアルセミナー	147名	141名	238名	223名	232名	252名

※ 2016年の数字は統計関連学会連合大会のウェブページでの報告

10. 関連学会等との後援・協賛事業

合計7件(後援2件, 協賛4件, 共催1件)

(参考：2015年度：合計10件(後援5件, 協賛4件, 共催1件))

今年度に後援・協賛した行事は次のとおり。

- ・第5回データビジネス創造コンテスト(後援)
- ・日本機械学会関東支部2016年度講習会「ビッグデータの機械工学へのインパクトを探る」(協賛)
- ・第12回TRIZシンポジウム(協賛)
- ・一般社団法人 データサイエンティスト協会3rdシンポジウム(後援)
- ・第15回国際分類学会連合会議(IFCS-2017)(協賛)
- ・第19回情報論的学習理論ワークショップ(IBIS2016)(協賛)
- ・日本品質管理学会「第6回科学技術教育フォーラム」(共催)

11. 関連学会等への協力と協調

以下の各連合組織に当学会より担当する理事又は特別任務を担当する学会員を指名し、各委員会に出席するなど協調を行った。

(1) 統計関連学会連合

理事会(理事：永田 靖 会長, 栗木 哲 副会長, 理事長：岩崎 学 会員),

事業委員会(川崎 茂 理事, 福水健次 会員, 橋口博樹 理事),

統計教育推進委員会(委員長：田栗正章 会員),

教材開発委員会(委員長：中西寛子 理事, 南美穂子 理事, 藤井良宜 会員, 渡辺美智子 会員)

統計家の行動基準および連合欧文ジャーナルについて検討を行ってきた。

(2) 統計関連学会連合大会

2016年度大会 プログラム委員会(佐藤忠彦 会員, 福水健次 会員), 運営委員会(本橋永至 会員)

(3) 横断型基幹科学技術研究団体連合

2016-2017年度 理事(中西寛子 理事)

(4) 統計教育大学間ネットワーク

質保証委員会 (田栗正章 会員), カリキュラム策定委員会 (中西寛子 理事, 藤井良宣 会員, 南美穂子 理事, 渡辺美智子 会員)

(5) リスク研究ネットワーク

機関メンバーとして参加

(6) 統計検定 (一般財団法人 統計質保証推進協会)

後援を行うと共に, 各種委員会運営にも協力

1 2. 大内賞候補者の推薦

2016年度の大内賞候補者を理事会として承認し, 学会から推薦した方が受賞された.

1 3. ホームページおよびメーリングリストの充実

ホームページを逐次更新し, 学会員への情報公開を円滑にした. また, メーリングリストによる情報公開を行った.

1 4. 名誉会員

2016年度は名誉会員について検討を行い, 公募を行った.

1 5. 会費滞納者への対応

会費滞納者については, 2016年度連絡を取れる範囲で通知した. 連絡の取れない4年以上の未納会員に対して検討を行った.

その他の事業については応用統計学会のホームページをご覧ください.

Ⅱ. 2016年度会計報告

1. 収入の部

勘定科目	決算額	予算額	差額
1. 会費収入	2,627,500	2,407,500	220,000
(1) 正会員	2,490,000	2,230,000	260,000
(2) 学生会員	37,500	57,500	▲ 20,000
(3) 賛助会員	100,000	120,000	▲ 20,000
2. 雑誌売上収入	413,800	469,800	▲ 56,000
(1) 購読料収入	413,800	469,800	▲ 56,000
(2) バックナンバー売上	0	0	0
3. 広告料	30,000	90,000	▲ 60,000
4. 掲載料・別刷り・カラー印刷収入	520,000	450,000	70,000
5. 年会等関係収入	370,307	462,062	▲ 91,755
(1) 年会収入	155,000	247,000	▲ 92,000
(2) チュートリアル収入	215,307	215,062	245
(3) ワークショップ収入	0	0	0
6. 雑収入(著作権料・利息等)	115,521	70,000	45,521
当期収入合計	4,077,128	3,949,362	127,766
前期繰越金	5,363,240	5,363,240	0
収入合計	9,440,368	9,312,602	127,766

会費収入に関する補足

2017年3月31日現在会員499名

内訳 正会員 478名
学生会員 21名

正会員収入内訳

2015年度まで 270,000円 (25名)
2016年度 1,355,000円 (271名)
2017年度から 865,000円 (173名)

2008年-2012年度1名, 2009年-2015年度1名, 2011年-2015年度1名, 2012年-2015年度1名, 2013年-2015年度2名, 2014年-2015年度8名, 2015年度11名

学生会員収入内訳

2015年度まで 17,500円 (2名)
2016年度 12,500円 (5名)
2017年度から 7,500円 (3名)

2012年-2015年度1名, 2013年-2015年度1名

会費納入率 91.21% (前年度に納入された825,000円を含める)
機関購読数 33件

2. 支出の部

勘定科目	決算額	予算額	差額
1. 機関誌関係費	757,773	1,340,000	△ 582,227
(1)印刷費	444,960	950,000	△ 505,040
(2)校正費	100,000	150,000	△ 50,000
(3)通信・発送費	212,813	240,000	△ 27,187
2. 年会等関係費	488,319	599,952	△ 111,633
(1)年会支出	383,759	519,952	△ 136,193
(2)チュートリアル支出	9,000	0	9,000
(3)ワークショップ支出	95,560	80,000	15,560
(4)共催国際会議支出	0	0	0
3. 管理費	944,493	1,048,924	△ 104,431
(1)事務委託費	750,000	750,000	0
(2)消耗品費	40,106	120,000	△ 79,894
(3)会議費	69,243	80,000	△ 10,757
(4)雑費	68,660	80,000	△ 11,340
(5)名簿作成費	0	0	0
(6)事務合理化費	7,560	10,000	△ 2,440
(7)選挙費	8,924	8,924	0
4. 役員旅費補助	0	150,000	△ 150,000
5. 関連学会協調事業費	80,000	82,500	△ 2,500
(1)関連学会年会費	80,000	80,000	0
(2)連合大会	0	2,500	△ 2,500
6. 学会賞	49,514	50,000	△ 486
当期支出合計	2,320,099	3,271,376	△ 951,277
収支差額(次年度繰越金)	7,120,269	6,041,226	1,079,043
支出合計	9,440,368	9,312,602	127,766

- ・1(1)印刷費……「応用統計学」(Vol.45,No1&2),
電子ジャーナル作成料 (Vol.44,No.3, Vol.45,No.1&2)
- ・3(6)事務合理化費……ドメイン名登録更新料

2017年度への繰越金の内訳

項目	2016年3月31日現在	2017年3月31日現在
銀行預金	126,754	934,390
郵便貯金	839,873	839,956
定額貯金	500,000	500,000
郵便振替	3,883,938	4,832,198
現金	12,675	13,725
合計	5,363,240	7,120,269

会計監査報告書

応用統計学会殿

応用統計学会会則に基づき、2016年4月1日より2017年3月31日までの会計経理を監査した結果、会計報告のとおり相違ないことを認めます。

2017年5月1日

監事

富澤貞男 

瀬尾隆 

III. 2017年度事業計画(2017.04.01~2018.03.31)

1. 機関紙の発行

「応用統計学」Vol. 46を発行する。

2. 応用統計学会論文賞等の授与

「応用統計学」に掲載された論文の中から優秀な論文に学会賞(優秀論文, 奨励論文)を授与する。また年会のポスターセッションの中から, 優秀ポスター発表賞を授与する。各受賞者は統計関連学会連合大会における企画セッションで講演を行う。

3. 年会の開催

2018年3月28日に統計数理研究所(立川市)で開催予定である。3月29日はチュートリアルセミナーを開催。

4. 応用統計学フロンティアセミナーの開催

5月20日に統計数理研究所(立川市)において標記セミナーを, 統計数理研究所の後援で開催する。テーマは「ビッグデータと応用統計学の相互作用を目指して: 医学・位置情報・行動ログのホルダーのニーズを探り研究に活かす」とし, 下記3氏の講演を行う。

宮田 裕章 氏 (慶應義塾大学医学部 医療政策・管理学教室教授),

柴山 和久 氏 (ソフトバンク株式会社 AI戦略本部本部長, 株式会社Agoop代表取締役社長 兼 CEO),

萩原 静巖 氏 (フューチャーウッズ取締役 兼 リクルートマーケティングパートナーズ ビッグデータエバンジェリスト)

5. 統計関連学会連合大会での企画セッション

2017年度統計関連学会連合大会(応用統計学会・日本計算機統計学会・日本計量生物学会・日本行動計量学会・日本統計学会・日本分類学会が共催)が2017年9月3日~6日に南山大学で開催される。企画セッションとして当学会は

・応用統計学会シンポジウム「応用統計学と応用分野の量的・質的な変貌~マーケティング・調査・選挙予測・公的統計~」, 及び

・応用統計学会学会賞授賞式および学会賞受賞者講演を企画運営する。

6. 研究集会

必要に応じてその他の研究集会を開催・支援する。

7. 学会員への情報公開

ウェブページやメーリングリストを活用して, 学会員への情報公開を有効かつ円滑に行う。賛助会員の一覧をウェブページに作成する。さらに会員の利便性を向上させる申し込みウェブ等を検討する。

8. 広報活動

会員の募集のための広報活動を, 連合大会(ブースの設置)や適切な媒体を使って行う。

9. 関係学会等との協調

以下の団体への加盟を継続し協力すると共に, その他関係学会との協調を促進する。

- (1) 統計関連学会連合
- (2) 日本計量生物学会
- (3) 横断型基幹科学技術研究団体連合(横幹連合)
- (4) 統計教育大学間連携ネットワーク
- (5) リスク研究ネットワーク
- (6) 統計検定(一般財団法人 統計質保証推進協会)
- (7) データサイエンティスト協会

(8) 日本品質管理学会

10. **名誉会員**

公募を行った推薦者に対し、承認を得て審議を行う。さらに2017年度末にも公募を行う。

11. **会費滞納者への対応**

会費滞納者に関しては、理事会として対応を行う。

12. **総会、評議員会、理事会の開催**

5月20日（フロンティアセミナー開催日）の午前中に、評議員会を開催し、フロンティアセミナー開催後に総会を開催する。また、9月の連合大会開催時、11月、2月、および3月の年会開催時に理事会を開催する予定である。またメールによる理事会は必要に応じて開催する。

IV. 2017年度予算

1. 収入の部

勘定科目	2016年度予算	2016年度実績	2017年度予算
1. 会費収入	2,407,500	2,627,500	2,267,500
(1) 正会員	2,230,000	2,490,000	2,100,000
(2) 学生会員	57,500	37,500	47,500
(3) 賛助会員	120,000	100,000	120,000
2. 雑誌売上収入	469,800	413,800	282,000
3. 広告料	90,000	30,000	165,000
4. 掲載料・別刷り・カラー印刷収入	450,000	520,000	300,000
5. 年会等関係収入	462,062	370,307	508,500
(1) 年会収入	247,000	155,000	189,000
(2) チュートリアル収入	215,062	215,307	319,500
(3) ワークショップ収入	0	0	0
6. 雑収入(著作権料・利息等)	70,000	115,521	70,000
当期収入合計	3,949,362	4,077,128	3,593,000
前期繰越金	5,363,240	5,363,240	7,120,269
収入合計	9,312,602	9,440,368	10,713,269

個人会員の会費納入率を90%として

正会員.....420名(467名×0.9)×5,000円=2,100,000円

学生会員.....19名(21名×0.9)×2,500円=47,500円

賛助会員.....6件×20,000円=120,000円

・2. 雑誌売上収入 団体会員購読料収入.....Vol.45の6部(6件)×6,000円=36,000円および
Vol.46の41部(32件)×6,000円=246,000円の合算で算出

・3. 広告料.....Vol.45, No.1&2(1件30,000円)およびVol.45, No.3(2件分45,000円)と
Vol.46, No.1, No.2, No.3を発行予定として165,000円で算出

・4. 掲載料(ページチャージ)1号につき15万円×2号分=300,000円

2. 支出の部

勘定科目	2016年度予算	2016年度実績	2017年度予算
1. 機関誌関係費	1,340,000	757,773	2,025,000
(1) 印刷費	950,000	444,960	1,465,000
(2) 校正費	150,000	100,000	200,000
(3) 通信・発送費	240,000	212,813	360,000
2. 年会等関係費	599,952	488,319	1,142,749
(1) 年会支出	519,952	383,759	374,825
(2) チュートリアル支出	0	9,000	267,924
(3) ワークショップ支出	80,000	95,560	100,000
(4) 共催国際会議支出	0	0	0
(5) Web作成費			400,000
3. 管理費	1,048,924	944,493	1,190,000
(1) 事務委託費	750,000	750,000	750,000
(2) 消耗品費	120,000	40,106	120,000
(3) 会議費	80,000	69,243	80,000
(4) 雑費	80,000	68,660	80,000
(5) 名簿作成費	0	0	0
(6) 事務合理化費	10,000	7,560	10,000
(7) 選挙費	8,924	8,924	150,000
4. 役員旅費補助	150,000	0	150,000
5. 関連学会協調事業費	82,500	80,000	180,000
(1) 関連学会年会費	80,000	80,000	80,000
(2) 連合大会	2,500	0	100,000
6. 学会賞	50,000	49,514	100,000
小計	3,271,376	2,320,099	4,787,749
7. 予備費	6,041,226	7,120,269	5,925,520
当期支出合計	9,312,602	9,440,368	10,713,269

- ・1. 機関紙関係費 印刷費・・・Vol.45,No.3およびVol.46,No.1,No.2,No.3の印刷費(1号につき35万円として算出)と、電子ジャーナル作成料(Vol.45,No.3およびVol.46,No.1,No.2,No.3の論文1件の作成料を6,500円として算出)
- ・5. 関連学会協調事業費 関連学会年会費・・・横断型基幹科学技術研究団体連合年会費5万円, 統計関連学会連合年会費3万円を含む

V. 会則の変更

会計理事より、会則変更理由の説明があり、下記の会則の変更が承認された。

新	旧
総 則 第1条 本会は応用統計学会（Japanese Society of Applied Statistics）と称する。 第2条 本会は1981年7月1日に設立された学会である。 第3条 本会は公益財団法人 <u>統計情報研究開発センター</u> （東京都千代田区神田神保町3丁目6番 能楽書林ビル5F）内に置く。 第4条 本会は応用統計学の研究，発展，普及と研究者，技術者相互の連絡，協力を促進 するとともに，外国の研究団体との交流を図ることを目的とする。	総 則 第1条 本会は応用統計学会（Japanese Society of Applied Statistics）と称する。 第2条 本会の事務所は（財） <u>統計情報研究開発センター</u> 内に置く。 第3条 本会は応用統計学の研究，発展，普及と研究者，技術者相互の連絡，協力を促進 するとともに，外国の研究団体との交流を図ることを目的とする。

※ 変更前の第3条以降は，数字が1つずつずれて，第4条以降となる。

VI. 統計関連学会連合での学会賞授与式と受賞講演

第1次選考，第2次選考の結果，以下の論文が選出された。

優秀論文賞： 山田健太郎，黒木学

「潜在反応モデルを利用した交通コンフリクト指標の定式化」Vol. 45, No. 1&2, 1-24.

奨励論文賞：*松井秀俊，*三角俊裕，*横溝孝明，小西貞則（*：受賞対象）

「非線形混合効果モデルに基づく関数データクラスタリング」Vol. 45, No. 1&2, 25-45.

VII. 名誉会員の推挙

公募を行って推薦された下記3名に対し審議の結果，名誉会員として承認された。

鷺尾 泰俊 氏，渋谷 政昭 氏，吉村 功 氏